

平成25年度「全国学力・学習状況調査」における 海老江東小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成25年4月24日(水)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
- ・海老江東小学校では、6年生 50名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・理解・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2) 児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

海老江東小学校

児童数

50

平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	70.9	58.0	82.7	67.6
大阪市	59.1	46.6	75.9	56.4
全国	62.7	49.4	77.2	58.4

平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	6.4	7.6	2.1	1.9
大阪市	11.5	14.2	1.9	6.5
全国	10.7	13.6	1.7	6.3

結果の概要

- ◇平均正答率は、国語A・B、算数A・Bのいずれにおいても大阪市・全国平均を上回っている。
◇国語A・算数Aの知識問題よりも国語B・算数Bの活用問題の方が、全国平均を上回っている率が高い。
◇平均無解答率が国語A・B、算数Bにおいて全国平均より低い。特にBの活用問題について無解答率が低い。
◆国語A—正答数分布では、上位・中位・低位の3つに分かれており、上位層に多く分布している。
◆国語B—正答数分布は、中位層に少なく上位層と低位層に分かれており、上位層に多く分布している。
◆算数A—正答数分布は、上位層に多く分布している。
◆算数B—正答数分布は、中位層に少なく上位層に全国より多く分布している。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校における学力向上の取組

◇学力の基盤となる「読書・読み・書き・計算・自主学習」の定着をめざして以下の①～⑥の教育活動を実施してきた結果、国語A(知識)・B(活用)、算数A(知識)・B(活用)の全てについて全国平均を上回っている。

- ①朝の一斉読書や読み聞かせなどを通した「読む力・聞く力」の育成
- ②授業の中で子どもの考えを大切にし、子どもが主体的に表現し活動する場の保障
- ③優れた文章に多く出合わせるための音読や暗唱
- ④文章を正確に早く書くことができるようにするための視写活動
- ⑤計算定着のための反復練習
- ⑥家庭学習の手引きを活用した自主学習ノートの実践

◇日々の授業においては、B(活用)の力を育成するために、資料からの読み取り活動や自分の考えの根拠を明確にした話し合い活動を大切にするとともに、丁寧でわかりやすい授業に努めた。

◇個々の理解の程度に合わせたヒントカードを用意するなど児童の学習意欲高揚に努めている。

◇算数・国語において、定着しにくい単元でTTや2学級3分割などの習熟度別少人数授業を実施している。

【今後の課題】

- ◇自主学習のさらなる定着と継続指導(「学びの軌跡(学びのポートフォリオ)」)
- ◇習熟度別少人数指導の時数増加
- ◇教員間でのより質の高い指導や実践の継承、6年間のスパンで児童を育成していくという共通理解

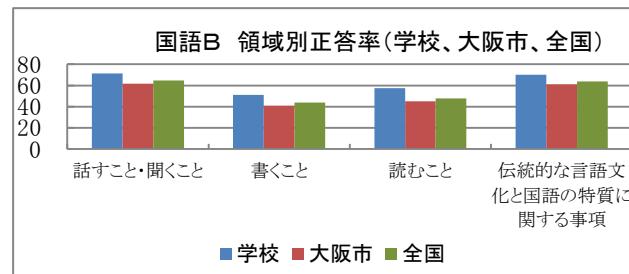
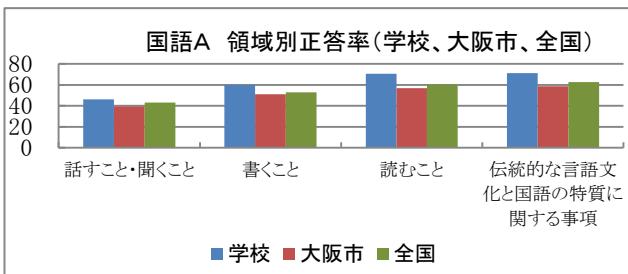
【国語】

結果の概要

◇「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4項目全てについて、A問題、B問題とも大阪市・全国平均を上回っている。特に「読むこと」については、全国平均を10ポイント近く上回っている。
◇「国語の勉強が好き」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答が約77%で全国平均の58%をはるかに上回っている。

A 問題 (知識)		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	46.0	39.5	43.2
	書くこと	4	60.0	51.1	53.0
	読むこと	3	70.7	56.8	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	71.1	58.7	62.6

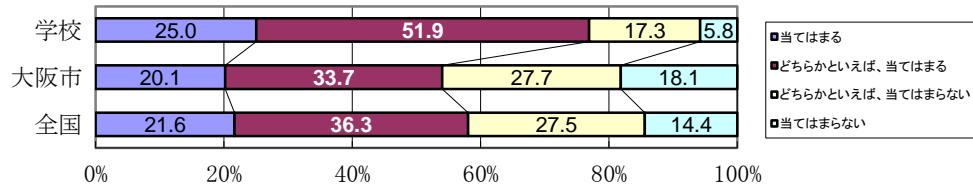
B 問題 (活用)		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	71.3	61.7	64.8
	書くこと	4	51.0	41.0	43.8
	読むこと	4	57.5	45.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	70.0	61.0	63.8



国語に関する「児童質問紙」

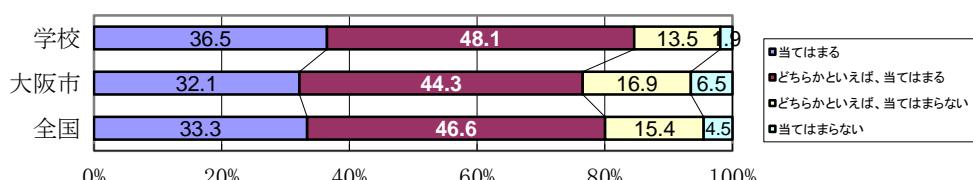
I 53 II 52 III 62

国語の勉強は好きですか



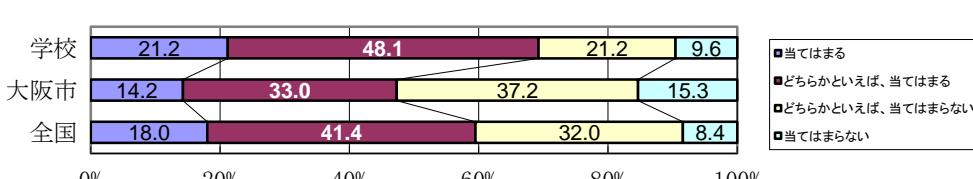
I 55 II 54 III 64

国語の授業の内容はよく分かりますか



I 58 II 57 III 67

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 69

国語の授業で自分の考えを書くとき、考え方の理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

◇朝の一斉読書、読み聞かせなど児童の読書環境が整っており、日々の積み重ねが「読むこと」のポイントを上げている。(保護者の協力のもと図書貸借のバーコード化を9月に完了し、現在運用している)
◇視写活動が書くことへの抵抗感をなくしている。
◇普段から、児童にとって「よくわかる・楽しい」授業が行われていることで、「国語がよくわかるから国語が好き」という相乗効果が生まれている。

今後の取組

◇蔵書数や図書室運用時間などを増やすことで、児童の読書環境のさらなる充実を図っていく。
◇国語の自主学習を工夫させる。(「学の軌跡」の活用)
◇習熟度別少人数授業時間を増やしていく。

【算数】

結果の概要

◇「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4項目全てについて、A問題、B問題とも大阪市・全国平均を上回っている。特にA問題の「図形」、B問題の「数量関係」は約10ポイント、特にB問題の「数と計算」については約20ポイント全国平均を上回っている。

◇「算数の勉強は好きですか」において、全国平均を上回っている。また、「算数の授業の内容はよく分かりますか」においても全国平均を大きく上回っている。

A 問題（知識）

平均正答率(%)

学校	大阪市	全国
----	-----	----

学習指導要領の領域等	数と計算	8	85.3	79.8	80.2
	量と測定	4	74.0	66.0	68.3
	図形	3	81.3	70.2	72.5
	数量関係	4	87.5	82.2	83.4

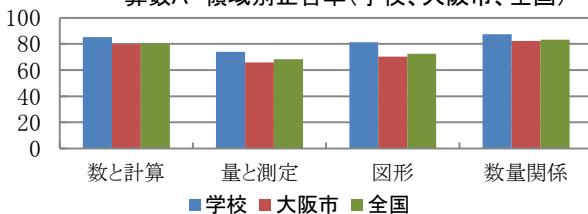
B 問題（活用）

平均正答率(%)

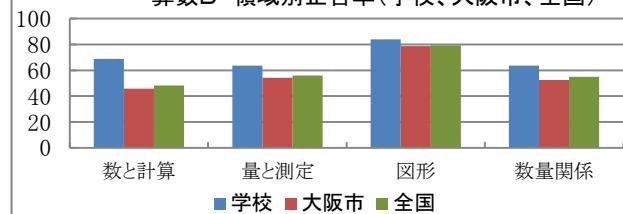
学校	大阪市	全国
----	-----	----

学習指導要領の領域等	数と計算	3	68.8	45.7	48.3
	量と測定	7	63.7	54.1	56.0
	図形	3	84.0	78.8	79.3
	数量関係	7	63.7	52.4	54.9

算数A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



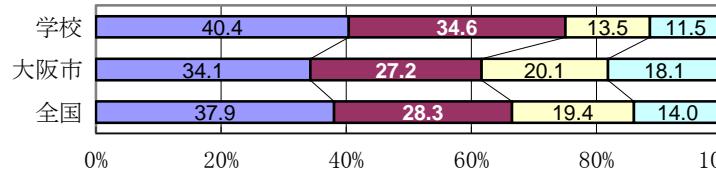
算数B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



算数に関する「児童質問紙」

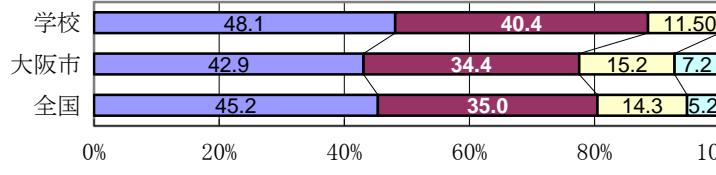
I 73 II 62 III 72

算数の勉強は好きですか



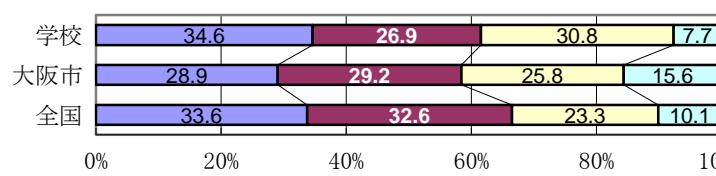
I 75 II 64 III 74

算数の授業の内容はよく分かりますか



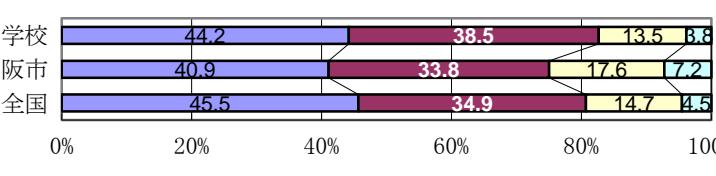
I 78 II 67 III 77

算数の授業で学習したこと普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 80

算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



成果と課題

◇反復練習の時間を確保し積み重ねてきた成果が表れている。

◇3年生以上のTT・習熟度別少人数指導において、個に応じたよりきめ細かな指導を実施してきた成果が表れている。

◇平素の学習の中で、子どもたちのいろいろな考え方を指導者が拾い上げるなど、丁寧な授業を行っている成果が表れている。

◇算数で学習したことの活用については、全国平均より低いことから、学習する単元の導入やまとめにおいて、算数と自分の身の回りの生活を結びつけたような事例を多く紹介していくようにする。

今後の取組

◇反復練習の時間の確保

◇学年の発達段階に応じた自主学習ノートの進め方を指導し、予習・復習に活用する。

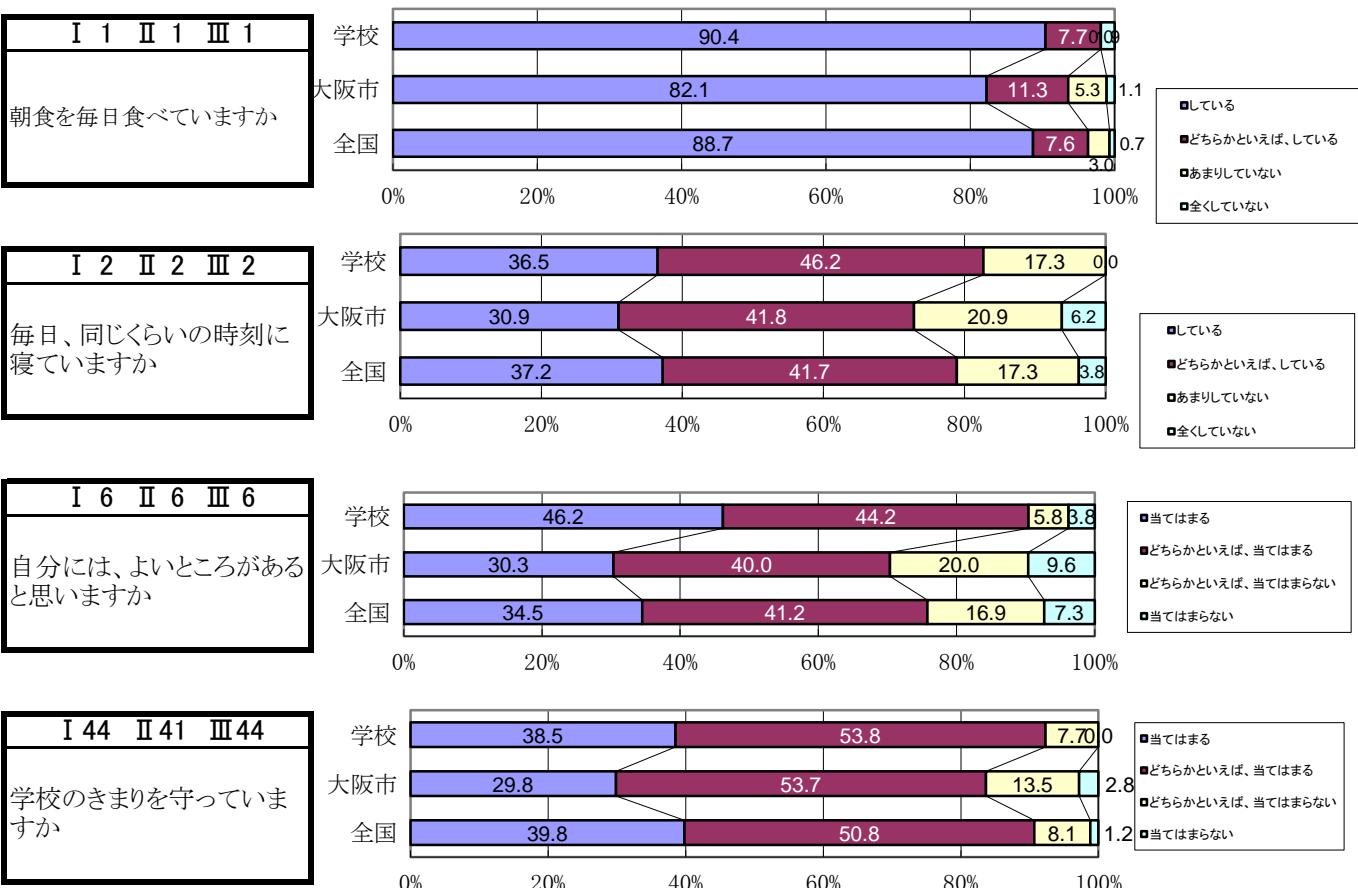
◇優れたノートについては紹介し、広めていくことで子どもの自学する力を養っていく。

基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

結果の概要

- ◇「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」では、「している・どちらかといえばしている」が全国平均をやや上回っている。
- ◇「自分には、よいところがあると思いますか」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」が全国平均をはるかに上回り、90%以上となっている。
- ◇「学校のきまりを守っていますか」でも、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」が全国平均を上回る90%以上となっている。

質問番号	質問事項
------	------



成果と課題

- ◇朝食・寝ている時刻の回答から、児童には基本的な生活を送るための家庭環境が整っている。
- ◇授業や特別活動、異学年混合の縦割りの集会活動など、全教育活動を通して“ええとこ見つけ ええとこのばそ”的教育をすすめてきた結果、子どもたちの自尊感情が育ってきている。
- ◇学年経営の基本に個々の「子どものよさを見つけて伸ばしていく」という方針があり、日々実践した成果が表れている。
- ◇全体には学校のきまりを守ろうという意識は高い。しかし、少數ではあるが個々に課題のある子どもがいるため指導を継続していく。

今後の取組

- ◇基本的な生活習慣を保つために保護者への啓発を継続する。(元気100%週間)
- ◇月々の生活目標のさらなる徹底(朝会や朝の会での指導・児童会活動と連携し効果を上げる)
- ◇教職員間での成果の振り返りと継続すべき取組の共通理解をすすめていく。
- ◇個々の課題については、関係諸機関と連携し組織的な取組を継続する。

家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

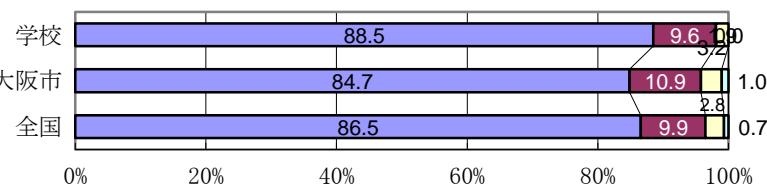
結果の概要

- ◇「家で、学校の宿題をしていますか」は、「している・どちらかといえばしている」の肯定的回答が98.1%と高率である。
- ◇「家で、学校の授業の復習をしていますか」は、全国平均よりやや劣っている。
- ◇「読書が好きですか」は、肯定的回答が全国平均を上回っている。
- ◇「授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」は、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答が全国平均を下回っている。
- ◇「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていますか」は、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答が全国平均を上回っている。

質問番号	質問事項
------	------

I 30 II 25 III 35

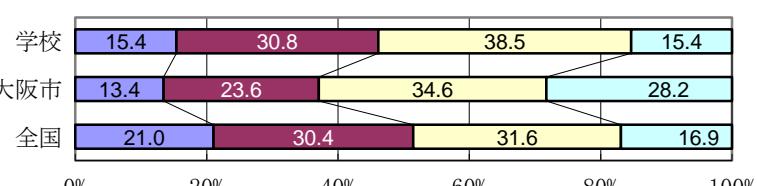
家で、学校の宿題をしていますか



■している
■どちらかといえば、している
■あまりしていない
■全くしていない

I 32 II 27 III 37

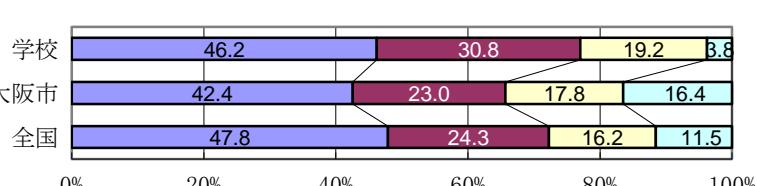
家で、学校の授業の復習をしていますか



■している
■どちらかといえば、している
■あまりしていない
■全くしていない

I 56 II 55 III 65

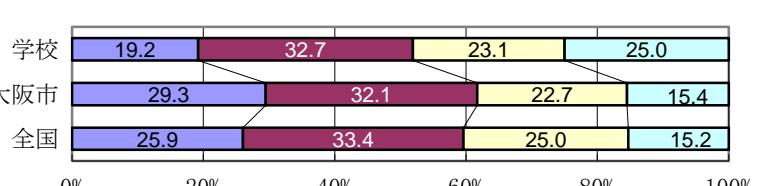
読書は好きですか



■当てはまる
■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない
■当てはまらない

I 52 II 51 III 60

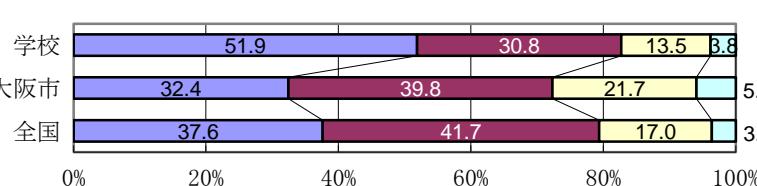
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



■当てはまる
■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない
■当てはまらない

I 50 II 48 III 56

普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていますか



■当てはまる
■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない
■当てはまらない

成果と課題

- ◇平素の学級担任の指導により家庭学習は定着しているが、家庭学習の仕方については具体的な提示が必要である。
- ◇朝の一斉読書が定着しており、平素より本に親しむ機会が多い。地域ボランティアによる本の読み聞かせなどの活動も、本好きな子どもの育成につながっている。
- ◇平素の学習の中で、人に説明する・自分の考えをまとめて書くなどの活動を取り入れている。難しいと感じる子どもが少ないことは訓練の賜物であると同時に、子どものたちの中に互いの意見を認め合うなどの雰囲気が醸成されており学級の仲間作りが良好な状態にあることがあげられる。今後も教員の指導力の維持、優れた指導を継承していく必要がある。

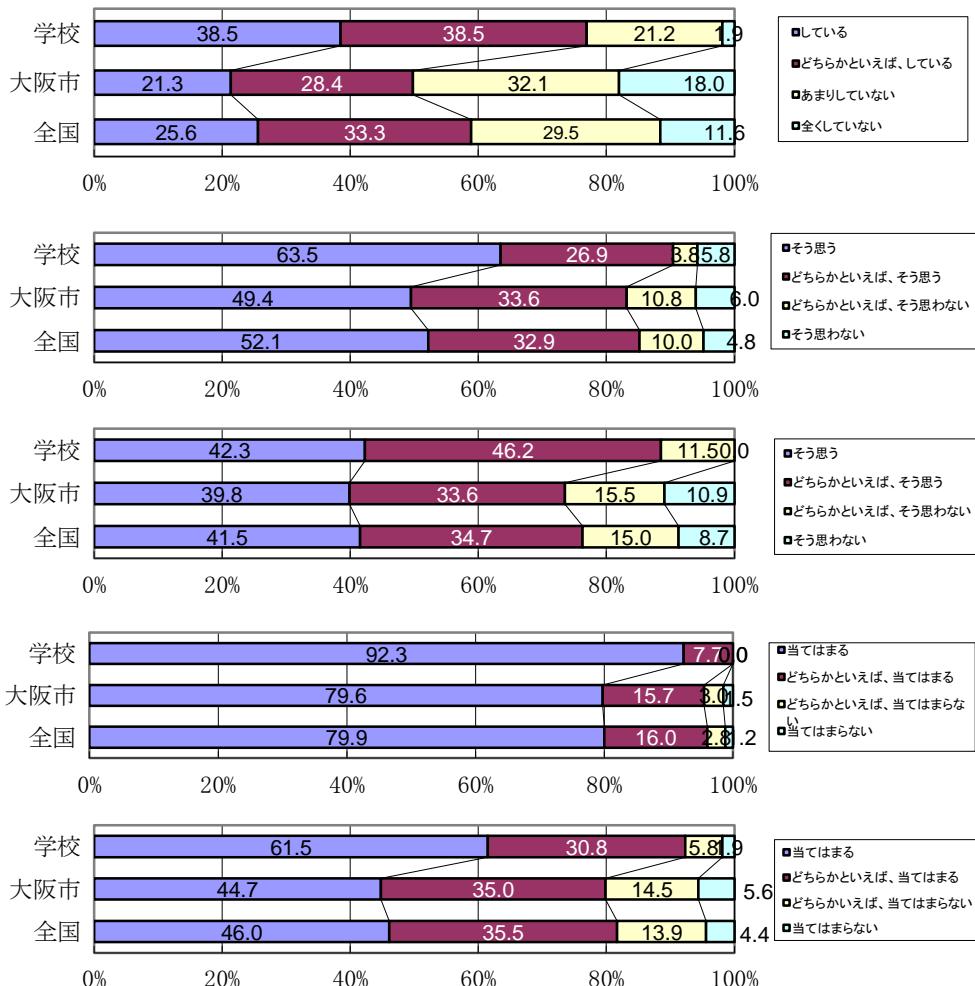
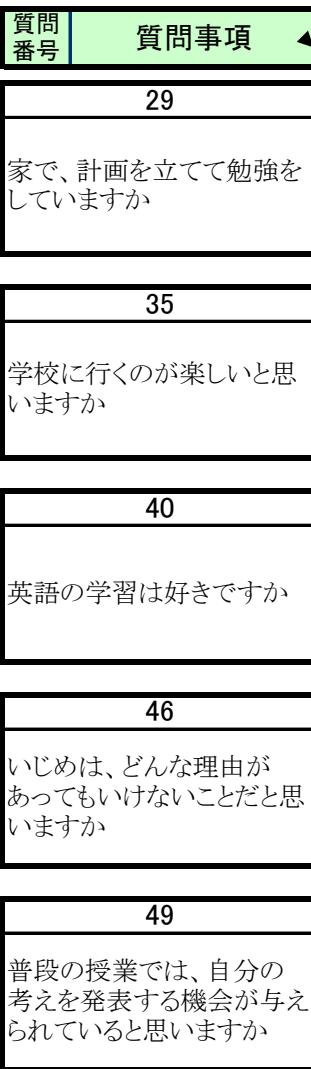
今後の取組

- ◇「家庭学習の手引き」を作成し配布した。保護者の協力を得るとともに、子どもたちに自主学習や復習の仕方などを具体的に提示していく。(「学びの軌跡」で優れた自主学習を紹介する)
- ◇子どもの読書環境の充実を図る。(使いやすい図書館、本の貸借のバーコード化・ボランティアを増員し読み聞かせの場を増やす、図書館開放時間を増やすなど)
- ◇より質の高い学習の成立には、良好な学級経営が基盤になっていることを共通理解する。

本校の特徴

全国と比較した本校の特徴

- ◇「家で、計画を立てて勉強をしていますか」は、「している・どちらかといえばしている」の回答が78%で全国平均の59%を20ポイント近く上回っている。
- ◇「学校に行くのが楽しいと思いますか」は、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答が90%以上で全国平均の85%を上回っている。
- ◇「英語の学習は好きですか」は、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答が89%以上で全国平均の76%を上回っている。
- ◇「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答が100%で全国平均96%を上回っている。
- ◇「普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」は、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答が92%で全国平均82%を上回っている。



考察

- ◇自主学習の定着は、学力の向上には欠かせない要因である。本校では、「家庭学習の手引き」を作成し全保護者に配布するとともに、よりよい自主学習のあり方について「学びの軌跡」で発信していく。
- ◇授業の中で子どもの思いを大切にしていく、ていねいに拾い上げていく、そんな授業を目指している。そのためには自分の考えを発表する機会が保障されなければならない。この項目について全国平均を上回っているのは好ましい状況である。
- ◇学校に行くのが楽しいと思う児童が全国平均を上回っているが、約10%の児童が「どちらかといえば思わない・思わない」と回答しており、原因の究明と対応策が必要である。
- ◇英語活動の研究を始めて3年目である。英語の学習が好きと回答している児童が約90%おり、本校の英語活動が児童にとって楽しい活動として定着している。
- ◇大津のいじめが原因による自死事案から、本校においてもいじめ調査を実施するとともに、いじめはいかなる理由があつても絶対にしてはいけないことを徹底して指導してきた。その成果が表れているとともに、いじめを許さない望ましい学級・学年集団が育成、維持されていることがうかがえる。
- ◇授業を教師からの一方的なものではなく、児童の主体的な活動を保障していくことで、自分の考えを発表する機会が与えられていると回答している児童が90%を超えていると考えられる。